

第80回 医学教育セミナーとワークショップ

with 聖隷浜松病院 共催

2021年 11月 13日(土) ~ 14日(日) (Web開催)

Webinar これであなとも、医学教育系YouTuber!?

TL

講師：本間陽一郎（聖隷浜松病院）、座長：渡邊卓哉（聖隷浜松病院）、西城卓也（MEDC）

WS-1 がん医療における多職種連携の要となる

ML

コーディネート能力とは

企画：飯岡由紀子（埼玉県立大学）、大場良子・廣田千穂（埼玉県立大学）、真鍋育子（さいたま赤十字病院）、森住美幸・小菅由美（埼玉県立がんセンター）、関谷大輝（東京成徳大学）、清崎浩一（新潟県立十日町病院）、馬場知子（自治医科大学附属さいたま医療センター）

WS-2 自身の経験から考える医学教育に潜むジェンダー・

ML

バイアスと医師のアイデンティティ形成への影響

企画：松井智子（浜松医科大学）、佐藤元紀（名古屋大学医学部附属病院）、加藤容子（椋山女学園大学）

WS-3 臨床教育現場で、つかえるICT技術の実情を共有しましょう！（Slack使ってみた。）

TL

企画：本間陽一郎（聖隷浜松病院）、河原 翔・本田優希（聖隷浜松病院）

WS-4 「やさしい日本語」で外国人患者とコミュニケーション

TL

企画：武田裕子（順天堂大学）、新居みどり（NPO法人国際活動市民中心）、石川ひろの（帝京大学）、今福輪太郎（MEDC）、岩田一成（聖心女子大学）

WS-5 医療者・医療系学生向け社会科学教材(事例集)の開発と活用

TL

企画：飯田淳子（川崎医療福祉大学）、錦織 宏（名古屋大学）、木村周平（筑波大学）、伊藤泰信（北陸先端科学技術大学院大学）、倉田 誠（東京医科大学）、浜田明範（関西大学）、星野 晋（山口大学）、森下真理子（京都大学）

WS-6 学びの深まる効果的な振り返りの手法：R2C2を学ぼう

A

企画：岡崎史子（東京慈恵会医科大学）、三好智子（岡山大学）、芳野 純（帝京平成大学）
船越 拓（東京ベイ・浦安市川医療センター）、大戸敬之（鹿児島大学）、吉田 暁（新潟市民病院）

WS-7 研修病院指導医、教育担当者交流会

ML

－ 卒前医学教育update&教育現場でのお悩み相談会 －

企画：渡邊卓哉（聖隷浜松病院）、本間陽一郎（聖隷浜松病院）、早川佳穂（MEDC）、石丸裕康（天理よろづ相談所病院）、伊藤彰一（千葉大学）、尾原晴雄（沖縄県立中部病院）、高橋弘明（岩手県立中央病院）、山田彩乃（ささえあい医療人権センターCOML）

11月13日(土)				
13:00-16:00	WS-1	WS-2	WS-3	
16:15-17:15	Webinar			
11月14日(日)				
9:00-12:00	WS-4	WS-5	WS-6	WS-7

* 記号（ TL 等）は、アソシエイト認定のための学習領域を表しています。詳細は、MEDCホームページをご覧ください。
* 定員を設けております。申込順にて受け付けいたしますので、ご了承ください。なお、当日の参加は受け付けません。
「Zoom(Web会議システム)」を利用します。今後の改善の参考にするため、録画いたします。ご理解とご協力をお願いいたします。

第81回 岐阜(Web)

2022/1/22-23

第82回 岐阜

併催 第23回教務事務職員研修
2022/5/20-21

第83回 関西医大

2022/10/28-29

2021
秋

Webinar これであなとも、医学教育系YouTuber!?

TL

講師： 本間陽一郎（聖隷浜松病院）

座長： 渡邊卓哉（聖隷浜松病院）、西城卓也（MEDC）

概要： 通信技術の発達により、画像検索、さらには動画で知識を得る時代になっている。動画でのコンテンツ提供は時代の流れであり、教育を提供する側としては、動画での情報提供は不可欠である。また、Facebook、Twitter等のSNSを使用している医学教育者は散見されるが、YouTubeへの参入障壁は高い。ただ、参入障壁が高いことは、優越性を享受することが可能となる。そのため、参入を考えている医学教育者は多いのではないか。このセミナーでは、医学教育者がYouTubeチャンネルを立ち上げる際にすべきことを考えてみる。

個人的に、患者向けの病院YouTubeチャンネルを5年間運用しており、当院の総合診療内科のチャンネルを立ち上げ、教育コンテンツを提供している。これらの経験から、医学教育者が、実際にYouTubeを立ち上げる際に参考になる情報提供をしたい。

対象： YouTubeをやりたいと思っている全ての医療者

WS-1 がん医療における多職種連携の要となる コーディネート能力とは

ML

企画： 飯岡由紀子（埼玉県立大学）、大場良子・廣田千穂（埼玉県立大学）、真鍋育子（さいたま赤十字病院）、森住美幸・小菅由美（埼玉県立がんセンター）、関谷大輝（東京成徳大学）、清崎浩一（新潟県立十日町病院）、馬場知子（自治医科大学附属さいたま医療センター）

概要： 医療の高度化・専門化が進化したことによる縦割り医療の課題や、複数の基礎疾患を持つ高齢者への医療課題などにより、チーム医療はより重要となっています。一方で、知識・技術、価値観が異なる多職種の連携・協働には多様な困難が伴うことも報告されています。多職種連携・協働を促進する能力の一つとして、コーディネート能力に着目しました。多職種連携・協働は地域包括ケアで多く検討されますが、我々は医療機関におけるがん医療の分野に焦点を当てました。WSでは、これまでの研究活動から考えた多職種連携を促進するコーディネート能力と、この能力向上のための研修を紹介します。また、具体的な研修内容としてコミュニケーショントレーニング、ファシリテーショントレーニングなどを一部体験していただきます。多職種連携のあり方、能力向上のための研修のあり方について、皆様と共に考えたいと思います。皆様のご参加をお待ちしています。

対象： 関心のある医療専門職者（医師、看護師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、臨床心理士、医療ソーシャルワーカー） 定員：45名

WS-2 自身の経験から考える医学教育に潜むジェンダー・バイアスと医師のアイデンティティ形成への影響

ML

企画： 松井智子（浜松医科大学）、佐藤元紀（名古屋大学医学部附属病院）、加藤容子（椋山女学園大学）

概要： ジェンダー格差の大きい日本において、医学界のジェンダー平等については大きな課題となっています。ジェンダー不平等の原因の一つに、ジェンダー・バイアス（社会的性偏見）がありますが、これまで医学教育におけるジェンダー・バイアスの存在やその影響については十分議論されてきませんでした。諸外国ではすでに医学教育に潜む根強いジェンダー・バイアスの存在やキャリア形成への影響が指摘され、その対応策に注目が集まっており、日本においても早急に医学教育に潜むジェンダー・バイアスの存在やその影響を検討していくことが求められています。今回はみなさんとそれぞれの経験を基に医学教育に潜むジェンダー・バイアスに迫り、医師のProfessional Identity Formation (PIF) の枠組みを用いながら、ジェンダー・バイアスが医師のアイデンティティ形成に与える影響について議論していきたいと思っています。

対象： 教員・指導医・研修医

定員：25名

WS-3 臨床教育現場で、つかえるICT技術の実情を共有しましょう！ (Slack使ってみた。)

TL

企画： 本間陽一郎（聖隷浜松病院）、河原 翔・本田優希（聖隷浜松病院）

概要： コロナ禍で、医療教育現場は変化を余儀なくされた。対面での教育が制限され、様々な取り組みがなされている。しかし、効果的であると感じる取り組みもあれば、従来の講義をe-learningに落とし込むだけの、教育効果が感じられない取り組みも散見される。当院では、コロナ禍前から、種々のICT技術を使い、初期研修医に対する教育を行ってきた。そこで、今回、我々が臨床教育で実際に使っているツールを紹介しつつ、他の施設での取り組みを共有したいと考えて、今回のワークショップを企画した。

まず、我々はSlackTMを導入して、初期臨床研修医の教育を行っており、実際の使い勝手などを体験してもらいつつ、使用感などをDiscussionしたい。ただ、一方で、実際の対面でないといへないコンテンツも存在する。そのため、対面で行うことが求められる教育について、その教育内容や教育効果についてDiscussionしたい。※スマホ（もしくはPC）で、Slackをダウンロードして参加してください。

対象： ICTを臨床教育現場に導入したい（導入している）医療職

定員：20名

WS-4 「やさしい日本語」で外国人患者とコミュニケーション

TL

企画： 武田裕子（順天堂大学）、新居みどり（NPO法人国際活動市民中心）、石川ひろの（帝京大学）、今福輪太郎（MEDC）、岩田一成（聖心女子大学）

概要： 本WSでは、外国人患者さんにもわかりやすい「やさしい日本語」を用いたコミュニケーションを体験します。今や、日本に住む在留外国人は300万人近くに上りますが、ことばの壁は医療機関へのアクセスを困難にしています。外国人診療＝英語と考えられがちですが、実際は「やさしい日本語」なら理解できる方は8割を超えます。（英語は4割程度）また「やさしい日本語」は、高齢者や障害のある方、子どもたちなど、言葉の理解や聞こえに不安のある方々にも伝わりやすくできているため、医療系学生・医療者のコミュニケーション力向上と共に、困難を抱える方々への理解を深めるきっかけにもなります。本WSでは、実際に日本語を母語としない方とのロールプレイを行い、企画者らが開発した動画教材（<https://easy-japanese.info/archives/391>）を用いた卒前・卒後教育への導入・医療者への普及について討議します。

対象： コミュニケーション教育を行う医療系学部教員、多文化共生に関心のある教員・医療者・学生

定員：25名

WS-5 医療者・医療系学生向け社会科学教材（事例集）の開発と活用

TL

企画： 飯田淳子（川崎医療福祉大学）、錦織 宏（名古屋大学）、木村周平（筑波大学）、伊藤泰信（北陸先端科学技術大学院大学）、倉田 誠（東京医科大学）、浜田明範（関西大学）、星野 晋（山口大学）、森下真理子（京都大学）

概要： 2017年3月改訂の「医学教育モデル・コア・カリキュラム」には、文化人類学・社会学の内容が含まれている（B-4 医療に関連のある社会科学領域）が、それを具体的にどのように教えるかについては、悩んでいる教員が多いと聞く。一方、臨床現場のケースを基盤とした学習・教育は、医療系学生や医療者に社会科学と臨床との関連性を感じやすくさせ、学習者の関心・学習意欲を喚起しやすい。それをふまえ、私たちは、臨床現場の多種多様なケースから立ち上がる問題を人類学・社会的な視点で考える事例集（上記コアカリB-4対応、全ケースにわたって医師と文化人類学者／社会学者が協働で執筆した）を作成した。本ワークショップでは、『医師・医学生のための人類学・社会学—臨床症例／事例で学ぶ』（飯田淳子・錦織宏編、ナカニシヤ出版、2021年初旬刊行）を用いて、医療者向け人類学・社会学教育について考える。

対象： 医療者向け行動科学・社会学教育に関心のある方

定員：40名

WS-6 学びの深まる効果的な振り返りの手法：R2C2を学ぶ

A

企画： 岡崎史子（東京慈恵会医科大学）、三好智子（岡山大学）、芳野 純（帝京平成大学）、船越 拓（東京ベイ・浦安市川医療センター）、大戸敬之（鹿児島大学病院）、吉田 暁（新潟市民病院）

概要： 研修医など新人医療者教育はいつの時代にも難しい。厳しく指導しても伝わるとは限らないし、こちらのフィードバックがどう受け取られているかもわかりません。なにより学習者が成長してくれなければフィードバックも意味がありません。最近北米では、一方的ないわゆるフィードバックではなく、コーチングの要素を取り入れた、R2C2モデルという振り返り面談の手法が用いられるようになってきています。R2C2モデルを使うと今後の目標を立てることができ、未来志向でフィードバックを締めくくることができます。このセッションではこのR2C2を学び、実際にどのように使ったらよいか、体感していただきます。

対象： 医療者新人教育において、効果的な振り返りの促しの手法を学びたい方

定員：24名

WS-7 研修病院指導医、教育担当者交流会

ML

— 卒前医学教育update&教育現場でのお悩み相談会 —

企画： 渡邊卓哉（聖隷浜松病院）、本間陽一郎（聖隷浜松病院）、早川佳穂（MEDC）、石丸裕康（天理よろづ相談所病院）、伊藤彰一（千葉大学）、尾原晴雄（沖縄県立中部病院）、高橋弘明（岩手県立中央病院）、山田彩乃（ささえあい医療人権センターCOML）

概要： 今回、臨床研修病院指導医、教育担当者のためのネットワーク（仮：臨床研修病院版ユニットの会）形成のきっかけづくりも兼ねて、本交流会を企画しました。前半に、卒後教育担当者にとって情報が得にくい、最近の卒前医学教育の動向についてご紹介し、卒前から卒後のシームレスな臨床教育を提供するために必要な情報を入手し、今後の自施設でのプログラム作りに役立てていただきたいと思います。また、岐阜大学MEDCにて開発された、医療者教育学の基本を学ぶことができるeラーニングプログラム（医療者教育スターキット）についても、ご紹介いたします。後半では、自施設での教育実践で困っていること、相談したいことをざっばらんに話し合う場を設けます。事前webアンケートを実施し、相談内容等に合わせてグループ分けを行い、参加者同士で意見交換していただく予定です。

対象： 臨床研修病院のプログラム責任者、指導医、事務担当者、研修医

定員：30名

参加登録方法

事前登録制です。インターネットから直接お申し込みください。
「MEDC」で簡単検索できます。

締切日：2021年10月24日(日)

参加費： 2,000円 学部学生無料

(別途システム利用料として220円がかかります)

参加費のお支払いについては、インターネットからお申し込み後、MEDC事務局からの自動返信メールにてご案内いたします。

参加費は、資料ならびにセミナーワークショップの報告が掲載されている「新しい医学教育の流れ」の作成等に使用いたします。

開催方法： ZOOM (Web会議システム)

※定員を設けております。申し込み順にて受け付けいたしますので、ご了承ください。
なお、当日参加は受け付けません。

今後の改善の参考にするため、ワークショップ等を録画いたします。
ご理解とご協力をお願いいたします。

今後の予定： 以下のスケジュールを予定しております。

今後の社会情勢によっては、開催に変更があるかもしれません。
ご了承下さい。

第81回 岐 阜(Web)

2022/1/22-23

併催

第82回 岐 阜

第23回教務事務職員研修

2022/5/20-21

第83回 関西医大

2022/10/28-29